

銚子ジオパーク市民の会 ニュース

屏風ヶ浦 (銚子市)

第102号

2019年11月28日 発行

発行責任者 工藤 忠男

編集責任者 藤身 隆雄

TEL 0479 24 2225

<http://choshi-geopark.com/>

第10回 日本ジオパーク全国大会 報告

専門員 岩本 直哉

第10回日本ジオパーク全国大会(10月31日〜11月5日)が開催されましたので、皆様にご報告いたします。今回は大分県での開催です。

テーマは『Wa!〜「わ」を体験しよう〜』。「ジオパークに触れると、驚きや感動の「ワッ!」、自然と人との調和の「和」、人と人とのつながりの「輪」を実感できます。お

おいだで3つの『Wa!』を体験して、未来へつなごう!」が大会のコンセプトです。

10月31日、11月1日はプレジオツアー。希望者は大分県のジオパークである姫島ジオパークや豊後大野ジオパークなどへ。

2日午後より大会が本格的にはじまり、開会セレモニー、基調講演やパ

質が貴重な手掛かりになっている理由などを説明しました。

パネルディスカッションは、ジオの魅力を伝えることをテーマに議論

「地域を歩く中で『面白い』と感じたことや発見したことを、自分の言葉で語ることが重要」ジオ

パークを通じた活動が住民の生活に入っていくことで地域がより活性化す

る「説明を受ける側が身近に感じる話題につなげると伝わる」地形や地質

にふるさとの宝があることを気付かせてくれるのがジオパーク。きちんと魅力が伝わるまで努力を

続けることが大切だ」などの熱のこもった議論が展開されました。

その夜は大交流会で全国各地のガイドなどジオパーク関係者と久々に再会し、また新たな出会いも楽しみました。3日は会場を移し、豊

後大野市エイトピアおのなどで招待講演、事例発表、全国ジオパークパ

ビリオン、飲食・物産ブースなどを行いました。

特に全国ジオパークパビリオンは初の試みです。地域ブロックごとに協力

して、それぞれが出店しました。関東ブロックは「ジオパーク縁日」を出

店。輪投げ、すごろく、塗り絵などでお客を呼び込みつつ、関東のジオパ

ークの魅力を伝えました。4日は引き続き全国シ

た。全国大会はみんな

が集い楽しむだけでなく、ジオパークの未来を多くの人と議論できる場でもあります。

オパークパビリオンと開会セレモニー。午後からは姫島・豊後大野・阿蘇へのポストジオツアーで

した。

他にはジオパークの審査に関する提言も。日本ジオパークは世界ユネス

コジオパークのガイドラインに沿って活動して

いますが、大事な地球の記憶である地質・地形を保全するという精神がおろそかになっていませんか?という提起がありました。全国大会はみんな

が集い楽しむだけでなく、ジオパークの未来を多くの人と議論できる場でもあります。

来年の全国大会は島根半島・宍道湖中海ジオパーク。ぜひ、参加をして各ジオパークの熱気を肌で感じ、「わ」を広げてみてください。

~~~~~  
全国大会には銚子ジオパーク市民の会から、小玉、内匠、房州の各氏が参加しました。



大交流会のパフォーマンスで書かれた巨大作品 (大分高校書道部)

ジオツアー「まると豊後大野」、「ぐるっと姫島ジオツアー」に参加された小玉さんから、

「豊後大野市の人口は約3万5千人、姫島村は約2千人と少ないにも関わらず、ジオパークになることによって、町に活気を取り戻したいと、頑張っている姿がとても印象的でした」とのコメントを頂きました。